

平成31年【第1回】 「いわて復興ウォッチャー調査」結果報告

1 目的

東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を実施する。

2 調査の概要

(1) 調査対象

岩手県の沿岸12市町村に居住又は就労している方 153名

※原則として、毎回同じ方を対象に調査を実施

(2) 調査方法

郵送法(郵送による発送、返信用封筒による返送)

(3) 調査対象時期

平成31年1月(次回調査は2019年7月予定)

(4) 調査項目

問1 被災者の生活の回復に対する実感 (被災者の生活の回復度及び直近6ヶ月間の進捗状況)

問2 地域経済の回復に対する実感 (地域経済の回復度及び直近6ヶ月間の進捗状況)

問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

(災害に強い安全なまちづくりの達成度及び直近6ヶ月間の進捗状況)

(5) 回収結果

有効回収率 83.7%(128名/153名) <前回 83.7%(平成30年7月調査)>

(6) 回答者の属性

①性別

性別	人数	割合
男性	87	68.0%
女性	41	32.0%
不明	0	0.0%

②地域別

地域	人数	割合
沿岸北部	42	32.8%
沿岸南部	86	67.2%
不明	0	0.0%

③年齢別

年齢別	人数	割合
39歳以下	12	9.4%
40歳代	29	22.7%
50歳代	49	38.3%
60歳以上	38	29.7%
不明	0	0.0%

④住宅被害の有無

被災有無別	人数	割合
被災あり	67	52.3%
被災なし	56	43.8%
不明	5	3.9%

⑤ 職業・所属等

- ・ 地域団体・郵便局関連(応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など) 47名(36.7%)
- ・ 教育・福祉施設関連(小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など) 37名(28.9%)
- ・ 産業・経済・雇用関連(漁業・農業従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者など) 44名(34.4%)

■参考■

- 「回復度」「達成度」とは、発災以降における全体の回復状況についてお尋ねしています。
「進捗状況」とは、直近6ヶ月の進み具合についてお尋ねしています。
- 沿岸北部とは、洋野町・久慈市・野田村・普代村・田野畑村・岩泉町の6市町村、
沿岸南部とは、宮古市・山田町・大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市の6市町です。

※ 調査結果の集計・分析にあたっては、岩手県立大学総合政策学部の協力を得て行っています。
※ 掲載する割合(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

3 調査結果の概要(1) 被災者の生活の回復に対する実感

○被災者の生活の回復度については、「回復した」が35.4%と、前回(29.7%)を5.7ポイント上回った。また、「回復した」「やや回復した」の合計は85.8%と、前回(81.3%)を4.5ポイント上回った。

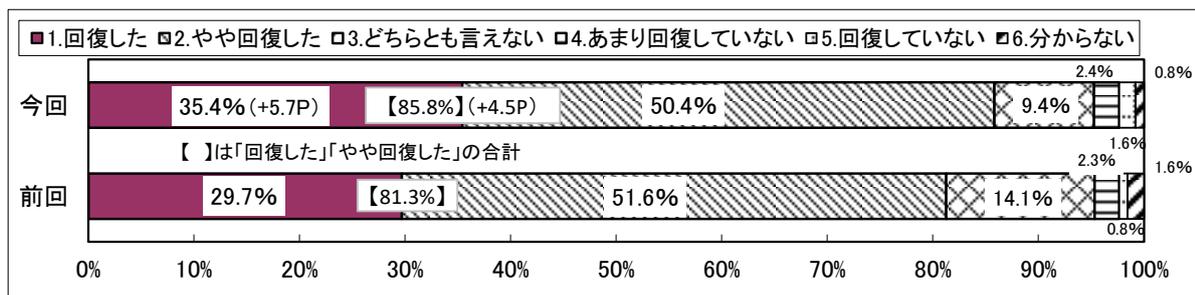
○地域別では、「回復した」が、沿岸北部で52.4%と前回(48.8%)を上回り、沿岸南部でも27.1%と前回(20.7%)を上回った。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で97.6%と、前回(87.8%)を上回り、沿岸南部でも80.0%と、前回(78.2%)を上回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は17.6%と、前回(9.6%)を上回った。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」が31.2%と、前回(31.5%)とほぼ横ばいであり、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計も78.4%と、前回(78.7%)とほぼ横ばいであった。

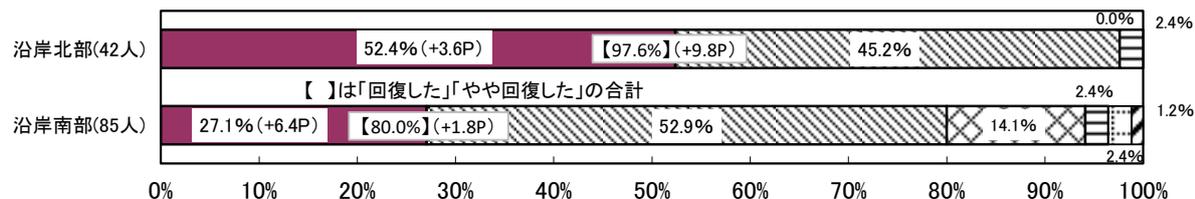
高台整備や災害公営住宅の完成、交通網の整備に伴い、多くの方々の住環境が改善されている声がある一方で、被災者の心のケアや住宅再建後の生活を心配する声もあった。

① 被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

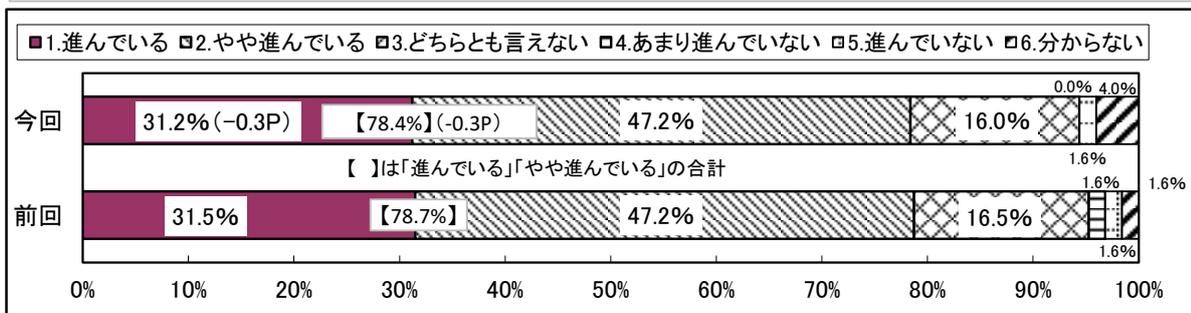


地域別

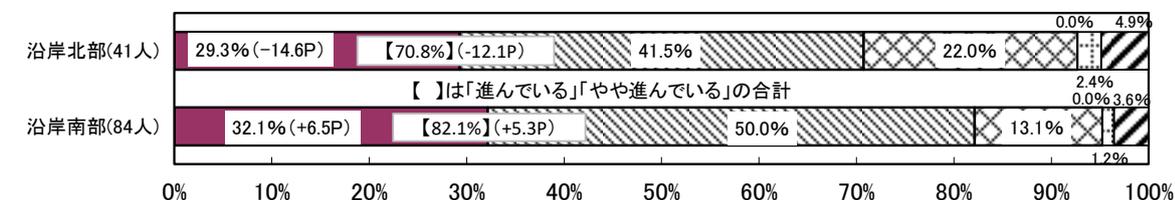


② 直近6ヶ月間(概ね7月から1月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.回復した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<p>◆未だ仮設住宅で暮らしている方はいるものの、特に不便は感じていないと思う。三陸道開通、鉄道の大槌駅前整備が進むと震災前より利便さや賑わいが向上すると考えられる。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆被災前に比べ(国道・県道・町道)道路整備により移動時間が短時間になり、また安全に車で走行できます。三陸道が全線開通すれば企業等が進出してくれると期待しています。被災前より生活がよくなっていくと思います。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆高台移転、公営住宅、自力再建のすべてが終了し、生活に安定感が感じられる。道路及びブリアス線も震災前と同等以上になり便利になった。商店は減ったが生活に不便を感じない。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆震災により農漁業を廃業した方も新たな生活に慣れてきて笑顔が見られる様になった。離職された方も新たな職に慣れ始めた様子で先の話が出てくるようになってきた。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆被災前への回復というよりも、現状の課題解決のために行政も市民も動いている感があるので、回復のその先に向かっていくように思われる。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p>
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<p>◆住宅再建は足踏み状態にあると感じる。補助金を支給しても高齢の方は再建に踏み切れない。住宅よりも日々の生活費の工面でいっぱいだったり、相続する方がいなかったりと、理由は様々。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆高台団地は9割以上の住宅が完成し、駅や郵便局、コミュニティセンターがあり、震災前の平穏さを取り戻しつつある。しかし小学校が廃校になることに寂しさを感じる。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆高台に家を新築し、引越しました。しかし、この地区は小学校や保育所等は整備されていますが、コンビニ等は一つもありません。まだ車で行けませんが、行かれなくなった場合等を考えると、不安です。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆町周辺の住環境の整備はいち早く進んだが、町中心部の高台移転地造成が遅れていた。災害復興道路の整備促進に併せて、高台移転地造成の完成の日が近くなってきた。嬉しい限りである。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤が完成間近と見受けられる。防潮林の植栽も進んでいる。三陸復興道路が各地で繋がってきている。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆再建されているお宅が増えたとし、道路状況の整備も進んでいる。しかしまだ、自宅再建の見通しを立てられない方がいるのも事実。(40歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆生活面は大分回復したように感じますが、被災者の心のケアは継続が必要だと思います。(40歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p> <p>◆住宅の確保はほぼなされたと思う。しかしその後、身体的には通院がちであったり、精神的にも震災以前より元気をなくしている方々が多く見受けられるように思う。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆生活は回復しているのだろうけれども、地域全体の高齢化がどんどん進んでいる。体調を崩す人たちがここに来て多くなっている。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆仮設の撤去が進んでいるが、公営住宅へ移った方から家賃が高いとの話を聞く。自宅再建と思っても今後のことを考えると迷っているようだ。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p>
<p>「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<p>◆私も最近、区画整理地内に住宅再建をしたが、子ども達の姿も見えず団地内に人の賑わいが見られない。これから新しい地域で新しいコミュニティづくりが行われることになるが、混在社会の中でどの様な取組をしていけばよいか迷うところである。(60歳以上,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p>

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率に概ね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
 教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など
 産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

3 調査結果の概要(2) 地域経済の回復に対する実感

○地域経済の回復度については、「回復した」が14.1%と、前回(20.3%)を6.2ポイント下回り、「回復した」「やや回復した」の合計も55.5%と、前回(57.8%)を2.3ポイント下回った。

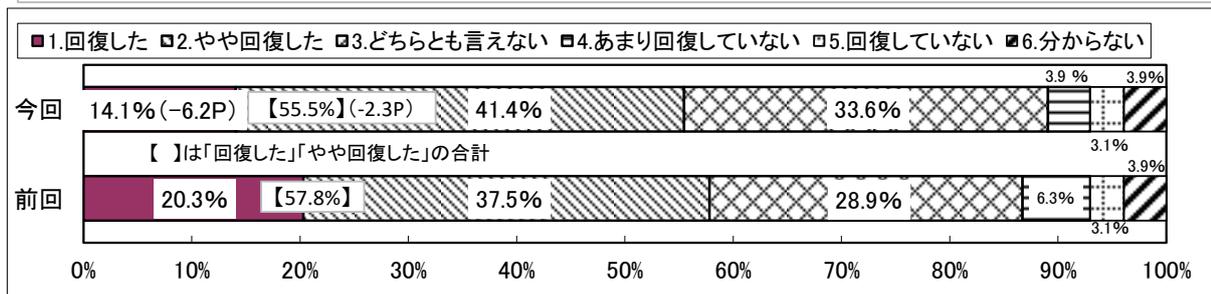
○地域別では、「回復した」が、沿岸北部で26.2%と前回(25.6%)とほぼ横ばいだったが、沿岸南部では8.1%と前回(17.2%)を下回った。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で69.1%と、前回(70.7%)を下回り、沿岸南部も48.8%と、前回(51.7%)を下回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は20.3%と、前回(19.0%)を上回った。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んだ」が10.2%と、前回(17.3%)を7.1ポイント下回り、「進んだ」「やや進んだ」の合計も46.1%と、前回(48.8%)を2.7ポイント下回った。

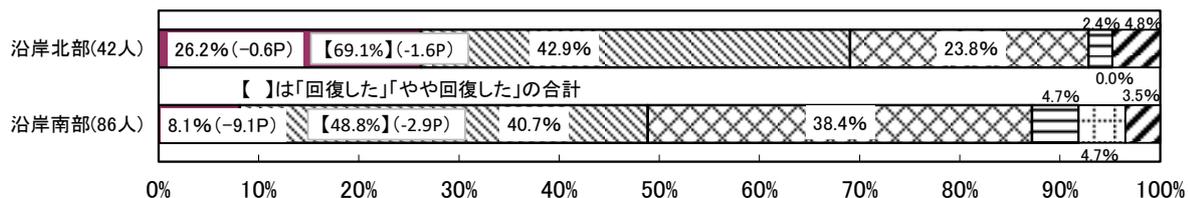
仮設から本設営業に移行する店舗が増え、中心市街地の賑わいが出始めているとする声がある一方、復興工事終了後の建設需要減退や漁獲量の減少、企業の人手不足や後継者不足に対する不安の声もあった。

① 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】あなたの周囲をご覧になって、地域経済は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

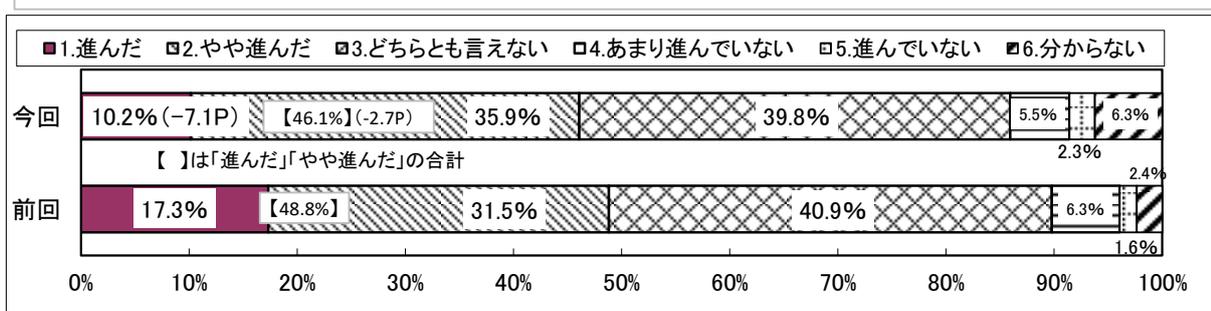


地域別

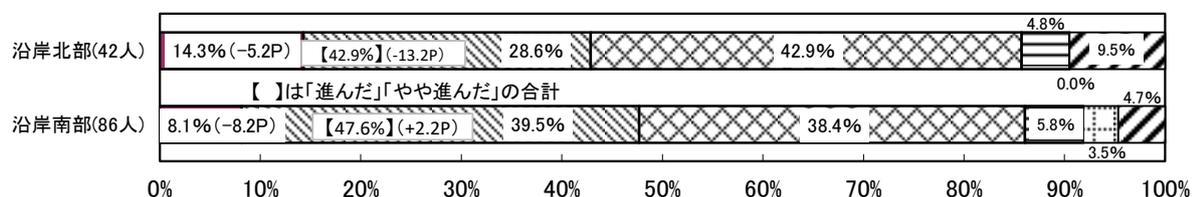


② 直近6ヶ月間(概ね7月から1月まで)の進捗状況

【設問】あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* ()内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.回復した」 又は 「1.進んだ」 の理由	<p>◆農家も漁家も被災前の水準に達していると思う。また、他の事業においても同じように感じます。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆建設業を中心に活気が出ている様子が見られる。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p>
「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んだ」 の理由	<p>◆本設移転を目指しても、土地の価格が高騰しており、思うように計画が進まない。水産関係でも記録的な不漁が続いており、市場の整備が進んでも稼働率は上がっていない。回復はこれから。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆Uターンして起業される方もおり、街に刺激を与えている。(40歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆水産業の生産基盤整備はほぼ完了しているが、海域の貝毒により出荷出来ない状況が長期に渡ったため、漁業者に大きな打撃を与えている。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆水産業に対する基盤整備は完成していると思われます。今後の生産体制については後継者不足により地域経済の進展が心配されます。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆商業施設(銀行、スーパー、飲食店その他店舗)が仮設から本設へと移ってきました。被災前に比べ1ヶ所にまとまっているので利便が良く、地域経済(商業)は回復していると思います。農林水産業も高速道の開通により流通が良くなり地域経済は良くなってきたと思います。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆建設業で雇用者不足のため、高齢者も働きに出ている。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p>
「3.どちらとも言えない」 の理由	<p>◆地域経済の回復度の観点では、復興需要を取り込んだ業種は震災前以上に業績を伸ばし体質強化を果たしている。一方、全国的に問題となっている人口減少の問題が当地域にも色濃く表れており、復興関連需要の減少と合わせ地域経済の先行きに不安を与えている。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆回復はしてきたかもしれないが、実際の収入面などでは実感が湧かない。(40歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆漁業について、養殖施設、漁船、漁港等の復旧は成されたが、ホタテの死滅、天然物のウニ、アワビ、イカ・サケも不漁で活気がない。震災からの復旧はしたが、全般に不漁で地域経済は落ちている。また、農業について、浸水地域の水田は復旧希望は極少で、自家消費用畑作物も自家用程度だが、震災前同様まで回復した。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆震災の影響だけではないが、水産業は明るいニュースがない。回復させることと同時に別の新しい考え方を入れなければ、このまま衰退してしまうのではと思う。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p> <p>◆工事業者は少なくなってきたと見え、県外からの人の出入りが少なくなった。町内の仕事も限られている為、人が住みつかない流出傾向。水産資源もまだ十分に回復しておらず、不漁が多い。地場産業としては震災前から収益が下がってきていた傾向があまり変わった様に見られない。(39歳以下,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆人口減少と後継者不足の影響が大きい。大型スーパーが賑わっているようでも空きテナントが多く、地元小売店の経営も厳しい。(60歳以上,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p>
「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	<p>◆農地整備や船舶配備は完了しているが、少子高齢化に伴い就業者数が減少し、以前同様の経済活動にはほど遠い。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p> <p>◆一部業種、特に建築、土木関連については回復しているように思われるが、それ以外の小売業の多くは震災の影響とその他の要因によるものと思われるが、厳しい状況にあると思われる。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p>

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率に概ね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
 教育・福祉施設関連 : 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など
 産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

3 調査結果の概要(3) 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

○安全なまちづくりの達成度については、「達成した」「やや達成した」の合計が68.5%と、前回(56.4%)を12.1ポイント上回った。また、「あまり達成していない」、「達成していない」の合計は5.5%と前回(11.1%)を下回った。

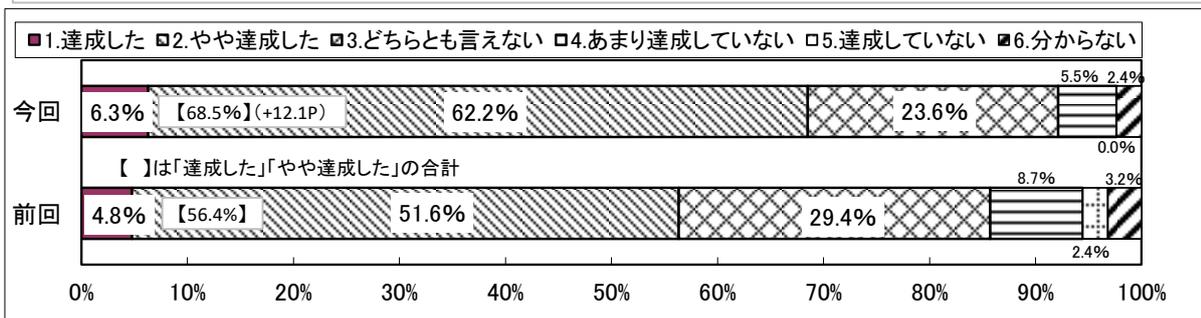
○地域別では、「達成した」「やや達成した」の合計は、沿岸北部で64.3%と前回(68.3%)を下回り、沿岸南部では70.6%と前回(50.6%)を上回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は6.3%と、前回(17.7%)を下回り、沿岸南部が沿岸北部を上回った。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が72.2%と、前回(68.3%)を3.9ポイント上回った。また、「あまり進んでいない」「進んでいない」の合計は3.2%と、前回(9.6%)を下回った。

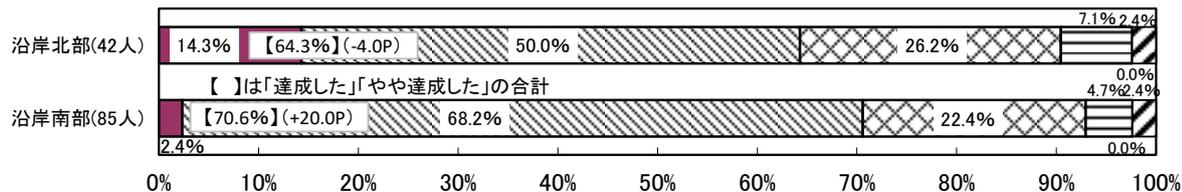
防潮堤や避難施設の完成、嵩上げ工事の完了や高台住宅整備の進捗状況を評価する声がある一方、工事の完了までは安全が実感できないという声や住民の防災意識の低下への不安の声もあった。

① 災害に強い安全なまちづくりの達成度(震災以降における全体の達成状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

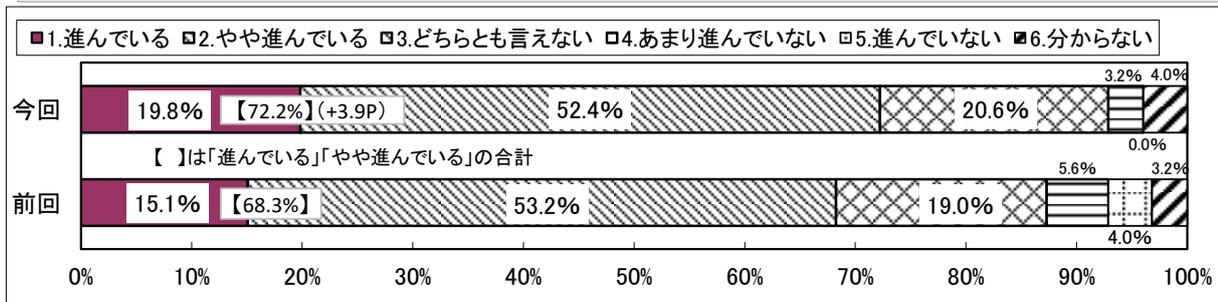


地域別



② 直近6ヶ月間(概ね7月から1月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)災害に強い安全なまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 達成度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.達成した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<p>◆防潮堤、県道、主要地方道の整備も完成、県道背後の嵩上げも終了した。防潮堤水門も完成した。高台の集団移転、災害公営住宅、自力再建も全て終了した。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤、避難施設などが完成し加えて避難道の機能も兼ね備えた三陸北道路も完成した。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p> <p>◆防災設備はもちろん、地域の人の意識も高い。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p>
<p>「2.やや達成した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<p>◆防潮堤によって今まで見えてた海が見えなくなってきたので、整備されていることを実感している。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤の工事は進んでいるように見えますが、水門の工事がまだまだかかりそうですね。昼はあまり不安を感じませんが、夜は車を運転していて不安を感じます。その理由は、防潮堤がつながっていないことでもあります、避難誘導看板が少ないと思います。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆高台住宅の整備が進んでいることで津波に対しては強くなっていると思う。道路についても整備が進んでいる。ただ、防潮堤はまだ半分ほどしか整備できていないと思う。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆嵩上げの出来た安全な町中心部が出来上がり、商店、事務所等がそれぞれの元地に再建し、営業致しております。先に公営住宅に入居した人、また山手の安全な場所に再建した方々は、待っていれば良かったとの後悔の話も耳にしました。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆高台移転や防潮堤の整備は順調に進んでいると思います。あとは、防災無線やトンネル内のラジオ放送等が確実に聞き取れるような設備の拡充が必要だと思います。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆思い切った高さの嵩上げならば新居を構えてもいいと思うが、中途半端な嵩上げの場所での新築にやや不安を覚える。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤や水門がなくても「逃げる意識」を失わないようにしなければならないと思う。避難路を見やすく大きく掲示することは難しくないと思うので、今すぐできることを考えてほしい。(39歳以下,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆堤防の建築などが進み、随分、町の感じも変わった。その分、「構造物があるから安心」との感覚もだんだん生まれてきているように思うので、これからも定期的な避難訓練など、住民の防災意識の啓発活動を続けていくべきだと感じる。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆国道45号線の工事が遅々として進んでおらず、迂回路の使用を強いられ不便を感じている(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p> <p>◆まだ防潮堤が完成してないので。ただ少しずつ出来上がっているの、あと1年位で完成するのかなと思う。ハード面はいいけどソフト面でどんな高い防潮堤も完璧ではないので避難する訓練とか周知が薄れているので必要だと思う。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆工事は進んでいるが、見慣れすぎて「安全性が高まって安心」という気持ちを感じる事がなくなった。(39歳以下,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆ハード面の工事は進んでいる。しかし防災意識は後退している。どんなに防潮堤を整備しても結局命を守るのは自分だということが分かなければまた犠牲が出る。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p> <p>◆地域連携の形はあるものの中味はあるのか。洪水や土砂災害時には使用できない場所も避難場所として指定されている。福祉避難所として指定されているものの備蓄されたものが果たして今使用できるのか、何人の受入が可能といった情報もない。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p> <p>◆防潮堤の工事は進んでいることが目に見えて分かる。浸水した地区に一般住宅や公営住宅などが建てられているが、安全なのかと心配になる。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p>
<p>「4.あまり達成していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<p>◆国道45号沿いに色々な建物が建っているが、いざ災害があった時どこに逃げればいいのか明確に避難する場所がない。(40歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p>

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率に概ね準じています。

注3) 掲載内容は、同意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など

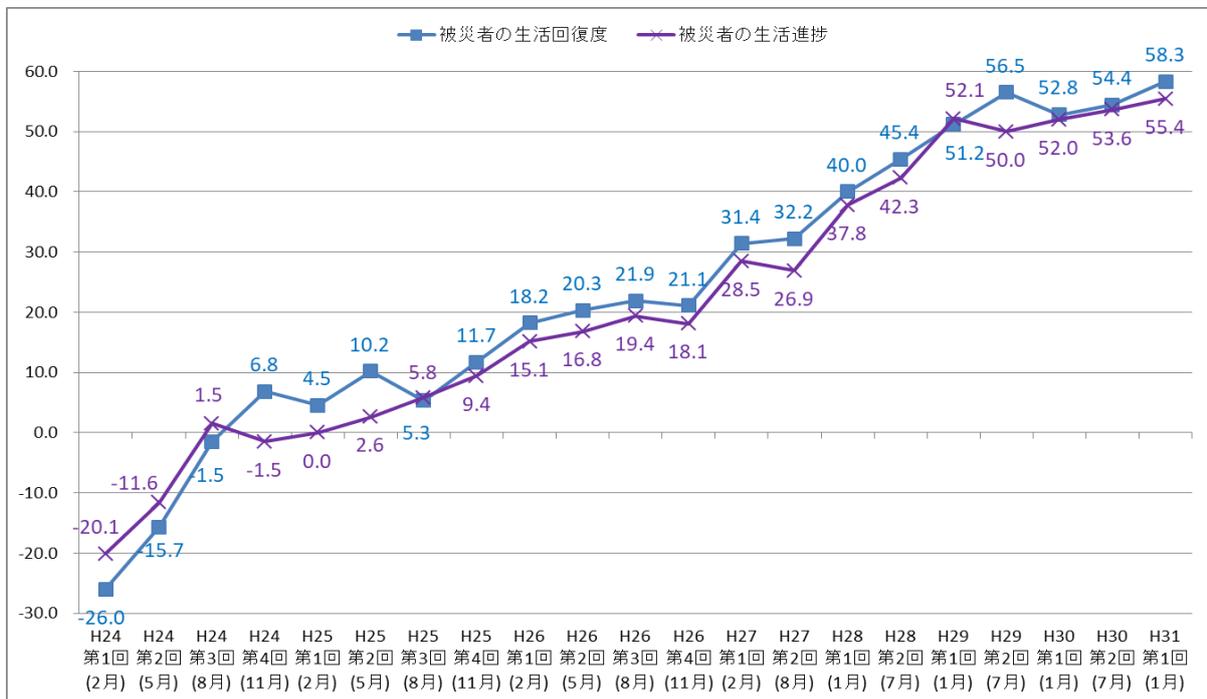
産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

いわて復興ウォッチャー・動向判断指数(DI)の推移

＜動向判断指数(DI)＞

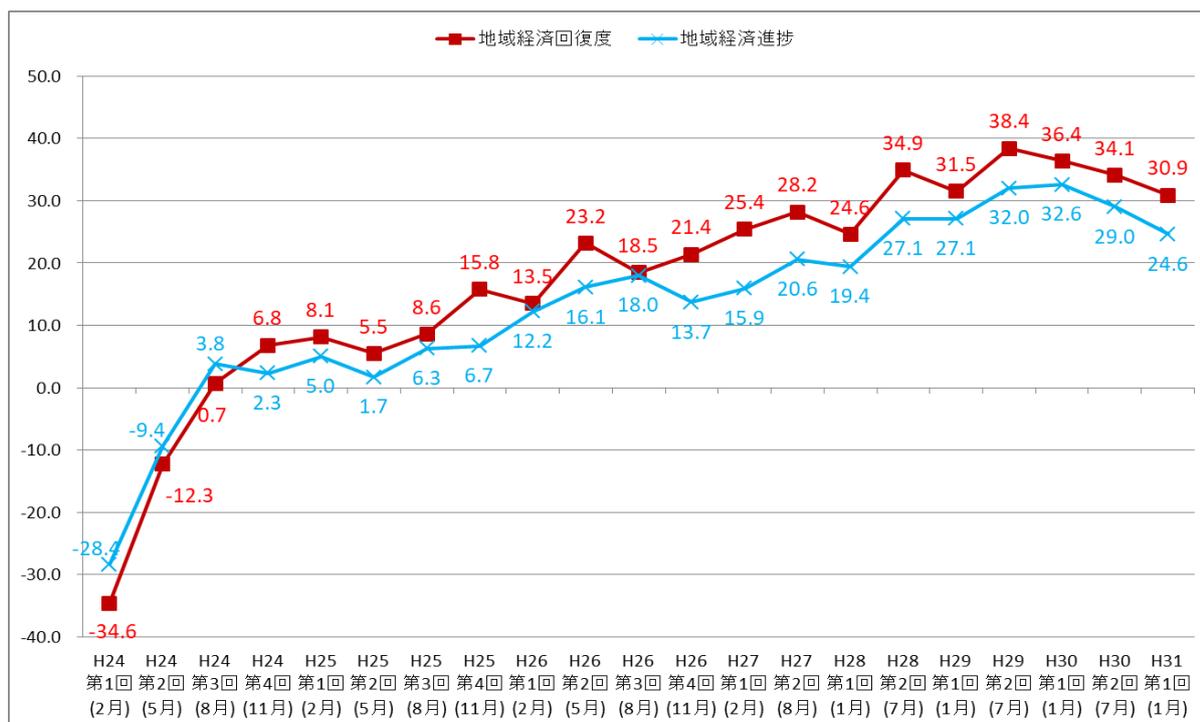
掲載する折れ線グラフは、各回の動向判断指数(DI)について時系列にその推移を表わしたものである。
 動向判断指数(DI)は、「回復した」の回答数がA、「やや回復した」の回答数がB、以下「どちらともいえない」がC、「あまり回復していない」がD、「回復していない」がEのとき、次の式で算出する。
動向判断指数(DI) = { (A×2+B) - (D+E×2) } ÷ 2 ÷ (A+B+C+D+E) × 100
 (注) 上記「回復した」は、設問によって「達成した」「進んでいる」等となる(他の選択肢についても同様)。

【被災者の生活】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



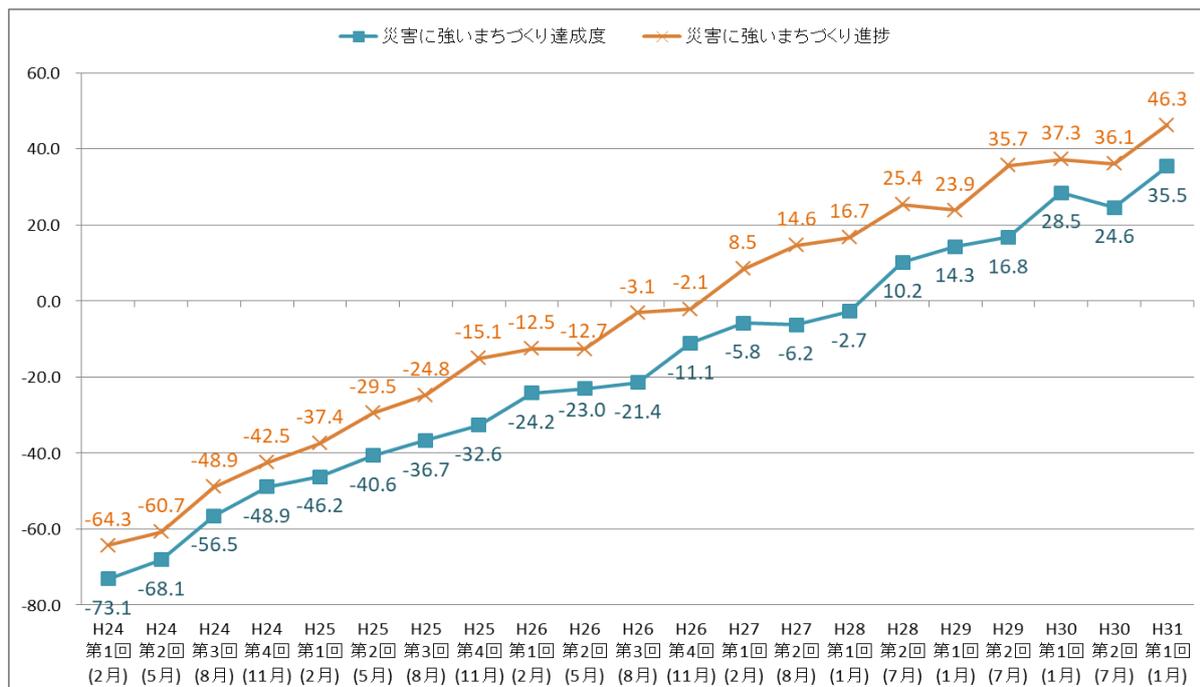
※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、概ねH30年7月～H31年1月)を指す。

【地域経済】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、概ねH30年7月～H31年1月)を指す。

【災害に強い安全なまちづくり】達成度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、概ねH30年7月～H31年1月)を指す。

平成31年【第1回】
「いわて復興ウォッチャー調査」
結果報告

発行

平成31年2月14日

岩手県

復興局 復興推進課

〒020-8570

岩手県盛岡市内丸10-1

電話(019)-629-6945

ホームページ：岩手県震災復興・復興の動き

<http://www.pref.iwate.jp/fukkounougoki/>